

# やまぐちっ子学力向上だより

第 7 8 号 H28. 9. 30  
山口県教育庁義務教育課

## 全国学力・学習状況調査の結果が公表されました

~ 全国学力・学習状況調査は、

調査問題そのものが国からのメッセージです ~



「平成28年度全国学力・学習状況調査」の結果が公表されました。今回の「やまぐちっ子学力向上だより」では、山口県の状況を中心にお知らせします。各学校の分析や校内研修、保護者や地域の方への情報提供等の参考としてご活用ください。なお、詳しくは、別添「平成28年度全国学力・学習状況調査の結果について」を参照してください。

### (1) 教科に関する結果

#### ① 全体の結果

教科の平均正答率を山口県と全国とで比べると、小学校・中学校ともに、国語、算数・数学のA・Bの全区分において、全国平均を上回る結果である。

#### ② 教科ごとの結果

##### 【小学校】

区分	平均正答率 (%)		全国との比較
	山口県	全国	
国語A	74.6	72.9	+1.7
国語B	58.7	57.8	+0.9
算数A	78.4	77.6	+0.8
算数B	48.1	47.2	+0.9

##### 【中学校】

区分	平均正答率 (%)		全国との比較
	山口県	全国	
国語A	76.9	75.6	+1.3
国語B	68.2	66.5	+1.7
数学A	63.6	62.2	+1.4
数学B	45.0	44.1	+0.9

この結果は、子どもたちの努力はもちろんですが、授業改善をはじめとした学校の組織的な取組や、保護者や地域の方々の理解と支援など、学力向上にかかわる取組が当たり前のものとして定着してきており、その成果が表れたものであると捉えています。一方で、国語、算数・数学ともに、特にB問題において継続して課題が見られる問題もあり、引き続き指導の充実・改善を図っていくことが求められます。

### (2) 児童生徒質問紙に関する結果

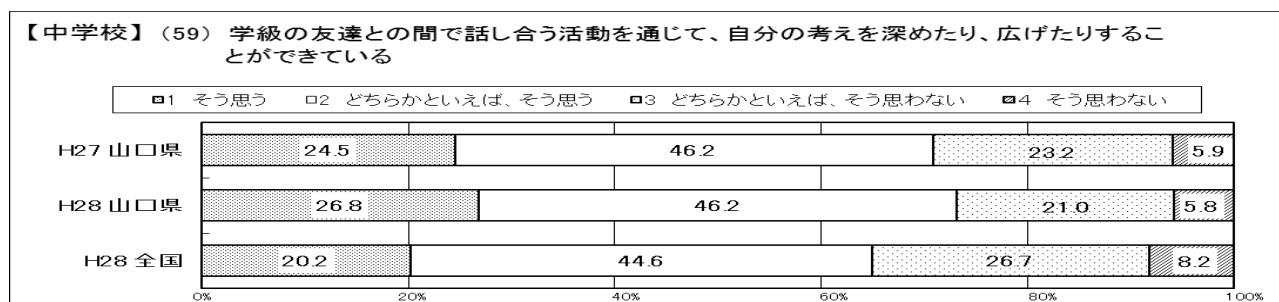
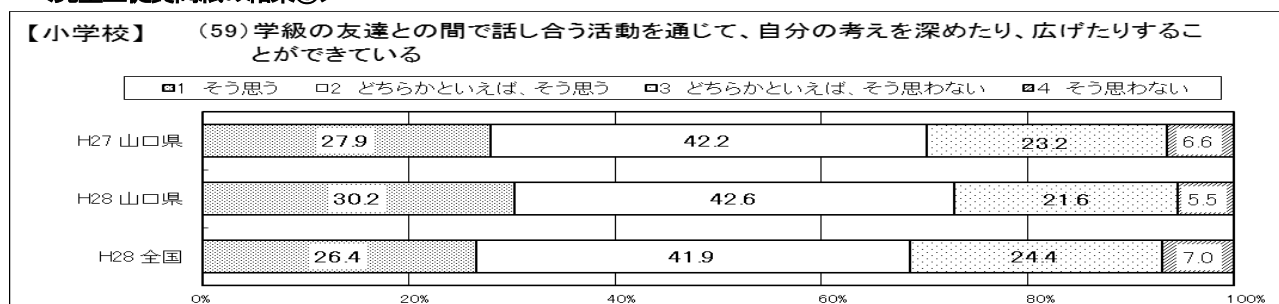
教科の調査とあわせて行われた児童生徒質問紙の結果から、主なものを取り上げて紹介します。

## ① 望ましい状況

学校の授業	○授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思う子どもの割合 ○授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行ったと思う子どもの割合 ○友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う子どもの割合
地域とのかかわり	○地域行事に参加している子どもの割合 ○地域や社会で起こっていることに関心がある子どもの割合
子どもの意識	○自分にはよいところがあると思う子どもの割合 ○いじめはどんな理由があってもやっつけてはいけないと思う子どもの割合

各学校で授業改善の取組が充実していることが、児童生徒質問紙の結果からもわかります。普段の授業における目標（めあて・ねらい）の明示や、学習内容の振り返りの実施についても、「よく行っている」と回答した子どもの割合は、引き続き高くなっています。さらに、「友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」など、学習指導要領の改訂の中で注目されている「主体的・対話的で深い学び」に関する質問についても、肯定的な回答をしている子どもの割合は高くなっています。

### <児童生徒質問紙の結果①>

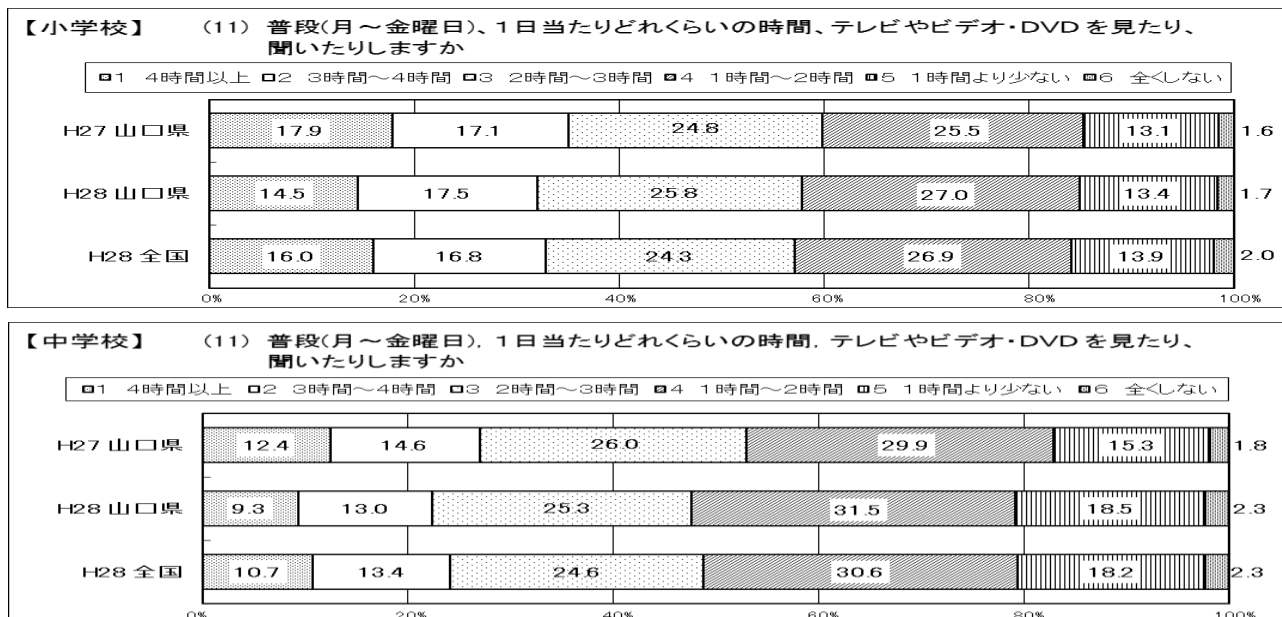


## ② 課題のみられる状況

家庭での習慣	●平日に2時間以上テレビ等の視聴をする子どもの割合 ●平日に読書をする子どもの割合
子どもの意識	●将来の夢や目標をもっている子どもの割合

家庭での生活習慣や学習習慣、子どもの意識など、多くの項目において、山口県の子どもの質問紙への回答状況は良好です。しかし、平日に2時間以上テレビ等の視聴をする子どもの割合は、減少傾向にあるものの、小学校では依然として全国平均と比べて高い状況にあるなど、引き続き改善が求められる項目もあります。子どもの周りにいる大人が協力し、学習環境を整備していくとともに、子ども自身が自分の生活習慣を整えることができるような働きかけをすることも大切です。

## <児童生徒質問紙の結果②>



今回の調査結果を手がかりにして、子どもたちが未来を拓くために必要な確かな学力を確実に身に付けられるよう、学校・家庭・地域が一体となった、社会総がかりでの学力向上の取組を一層充実させていくことが大切だと考えています。今後も引き続き、家庭・地域との連携・協働による取組の充実をお願いします。

### 各学校の実情に応じた具体的な取組を、全校体制で徹底して進めていきましょう

各学校においては、既に調査実施後の自校採点を踏まえて課題を分析し、その解決に向けた取組を進めていると思います。今回の結果公表を受け、改めて自校の取組を検証するとともに、必要に応じて見直しを行うことが大切です。次の三つに注目して、取組の検証・改善を進めましょう。

- 1 校内研修における工夫
- 2 日々の授業改善の重要性
- 3 補足的な学習の充実

#### 1：校内研修における工夫

各学校において、学力向上に関する様々な取組が行われています。それらの取組によって、大きな成果を挙げている学校があります。成果を挙げている学校に共通している点として、次の3点が挙げられます。

#### ○子どもの間違いに正面から向き合っている

成果を挙げている学校の教職員は、一人ひとりが自校の子どもについて、よいところと改善すべきところを具体的に語ることができます。具体的な解答を見ながら、子どもがどのような点につまずいているのかを明らかにするとともに、そのつまずきを生み出している要因について意見交換をしましょう。 チームで子どもたちを育てましょう。

## ○取組の目的や意義を共有している

成果を挙げている学校の教職員は、「なぜそのような取組をするのか」「そのような取組を実施することによって、子どもたちにどのような資質・能力を育むことができるのか」ということを語るができます。形だけの取組にならないように、取組の目的や意義を共有しましょう。職員室で授業について語りましょう。

## ○共通取組事項を焦点化している

成果を挙げている学校の教職員は、「うちの学校では、これだけはみんなでやっています」ということを語るができます。課題解決に向けた方策に優先順位をつけ、実際に取り組んでいくことを絞り込みましょう。そしてみんなで決めたことをみんなで実践する雰囲気をつくりましょう。みんなでやれば、どの子も伸びます。

## 2：日々の授業改善の重要性

日々の授業の質的向上は、求められる資質・能力を子どもたちに育む上で極めて効果的です。

「授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す」「学習内容を振り返る活動を行う」「かかわり合いの場を設ける」といった、授業の基本の形を整えましょう。全ての授業で取り組むことを決めましょう。また、ノートの書き方や話し合いの進め方などに関する基本的な約束事を、子どもたちと一緒に確認していくことも重要です。

また、教員には、よりよい授業を求めて、常に研修を深める努力も求められます。「主体的・対話的で深い学び」は、これからの社会を生き抜く上で求められる資質・能力を育むための学習過程として注目されており、普段の授業でもこのような学習過程を意識した改善が求められています。

## 3：補充的な学習の充実

多くの学校で、始業前や休憩時間、放課後の時間を活用した補充的な学習を実施しています。この補充的な学習が一時的なイベントで終わってしまうことのないように、全教職員で取り組むことはもとより、保護者や地域の方の力を借りて日常的な実施のしくみを整えることが求められます。

また、補充的な学習のもち方についても、改めて見直す必要があります。問題を渡せば、自分の力で進めることのできる子どももいれば、問題を解くためのヒントや手がかりをもらってはじめて問題に向き合うことができる子どももいます。一人ひとりの子どもの状況に応じた、きめ細かな働きかけを心がけましょう。

各学校においては、今回の調査結果を学校の組織力の現状と受け止め、年2回の検証改善サイクルを確立する中で、指導の改善・充実を図りましょう。その際、義務教育課が作成している『学力向上支援資料』をはじめ、各指導資料なども積極的に活用していただきますようお願いいたします。



全国学力・学習状況調査後、各学校で行われた自校採点の結果をふまえ、6月中旬以降、各市町教育委員会を通じて、教職員一人ひとりにお届けした『学力向上支援資料』です。各学校における学力向上の取組を支援することを目的に修正したものです。多くの学校で、積極的にご活用ください。